

使用済燃料対策推進計画の 進捗状況について (概要)

四国電力の取り組み状況について

使用済燃料乾式貯蔵施設の設置に向けた対応状況について

【対応状況】

- 2018年5月25日、伊方発電所における乾式貯蔵施設の設置に係る原子炉設置変更許可申請を行い、現在、審査対応を着実に進めているところです。
- 2023年度の運用開始を目指して、乾式貯蔵施設の設置に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

【施設の概要】

<乾式貯蔵建屋>

| 項目 | 計画 |
|------|---|
| 規模 | ・1棟(鉄筋コンクリート造り) ・東西:約40m、南北:約60m、高さ:約20m |
| 貯蔵容量 | ・500トン・ウラン規模※ (燃料集合体で約1,200体規模) |

※乾式キャスクで45基分

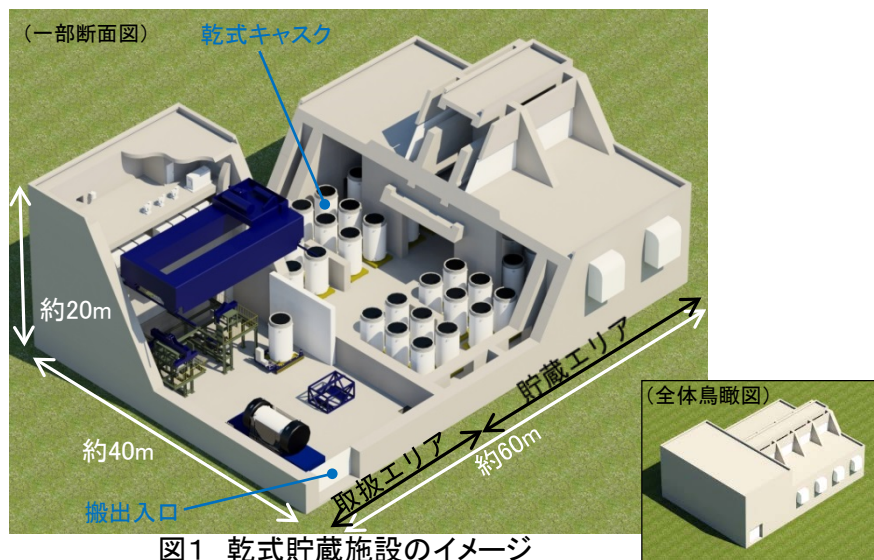


図1 乾式貯蔵施設のイメージ

<乾式キャスク>

| 項目 | 計画 |
|------|--|
| 寸法 | ・高さ:5.2m、直径:2.6m |
| 重さ | ・約120トン(使用済燃料を収納した状態) |
| 収納体数 | ・使用済燃料32体/基(1,2号機燃料) ・使用済燃料24体/基(3号機燃料) |



図2 乾式キャスクの構造

九州電力の取り組み状況について

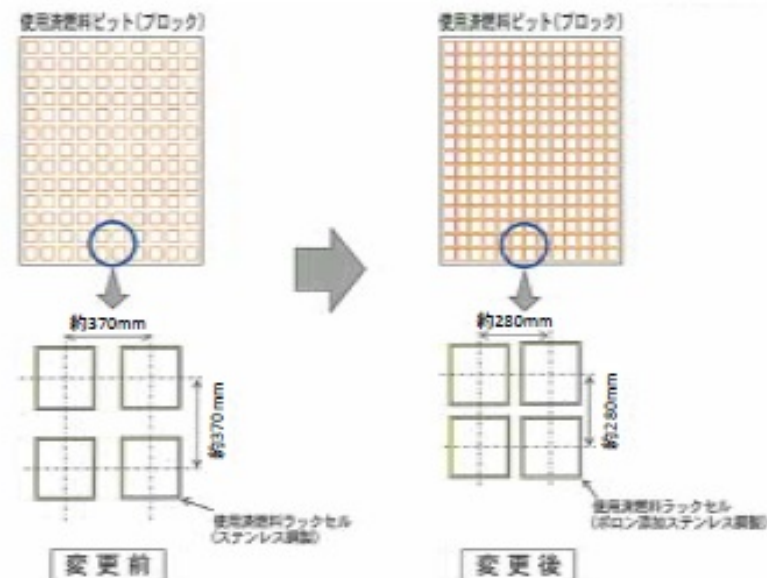
九州電力(株) 玄海3号機 リラッキング工事

玄海3号リラッキング工事の概要(平成22年2月申請)

- ・3号機使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力を増強(1050体⇒2084体)
- ・3号機使用済燃料貯蔵設備を1,2,3,4号共用化



リラッキング関連施設概略図



リラッキング概念図

現在、新規制基準対応を検討中